京城新聞

妄言妄評　栗欺生

▲スラブ民族同盟　ウイッテ伯は頻にスラブ民族同盟說を唱へて、スラブ民族同盟と唱へる大雜誌を發刊するとの事なりしが今に其發行を見ず、併し東歐近時の形勢より考れば到底ウイッテ伯の說は行はるべきものに非ず、人種的同盟の時代は既に過ぎ去れるもの丶如し、亦宗教的同盟の如きも今は過去の夢想に屬す、羅馬法皇の舊教徒同盟の如きは全く夢想と化し去りぬ、見よスラブ人種の多きブルガリヤが露國の干涉を喜ばずして漸次に露國の勢力を排除し、獨逸に接近し終に今回の獨立を宣言するに至れり、ヘレツエゴヴヰナ、ボスニアもスラブ人種多し之が露國を喜ばずして獨逸を欽び終に墺國に合併するに至れり、巴爾幹半島に於ける露國の勢力が漸次減少して、獨逸の新勢力が巨然として樹立せるに至るは何等の理由に基因する乎、

▲利害の關係　人種的問題、宗教的同盟去りて、總て是れ利害の關係によりて國際關係は定るなり、利合すれば亞細亞人と歐羅巴人と同盟するも容易なり、利合せざれば白人同士と雖も相爭ふなり、日英同盟の如きは直に之を證據立るに非ずや、米國の如き新進氣鋭の國、基督新敎の盛なる國にして、淸國の如き舊慣を墨守する老大國、儒敎の本場、佛敎の盛なる國と握手せんとするに非ずや、斯る時に於て如何にウイッテ伯がスラブ民族大同盟を疾呼するも何の甲斐あらんや、巴爾幹半島に於ける露國勢力の失墜は露國が經濟的方面に勢力なきが爲なり、之に反して獨逸の勢力の增加せるは一は外交の力に依ると雖も經濟的勢力の深く浸潤せるが爲ならずんばあらず、帝國の對淸外交に於て能く此點に意を用ゆるを要す較もすれば獨米英の諸國に劣る所以も玆に存するに非ざる乎、獨り豈ウイッテ伯を笑ふべけんや、

▲半月旗の運命　東歐の風雲益々急するに從て半月旗の運命に想到せざるを得ず、危機は將さに土耳古帝國を襲ひつ丶あり、ボスニア、ヘレツヱゴヴヰナ、は墺國に合併せられクリート島は希臘に合し、ブルガリヤは獨立を宣言せり、其狀恰も漸次に手足を切離さる丶の觀あるなり、土耳古帝國自身としては深慨千万ならん、併し國勢の衰微と共に當然來るべきの結果なり、土耳古國勢の現勢は到底之を支ゆる能はざるなり唯此際に於て土崩瓦解を免る丶の道は能く英露獨佛の勢力を均制するにあるのみ、然れども此際幸なるは英露の兩國は必ず傍觀せずして能く平和を保たしむるの擧に出づべければなり、されど之れ唯一時のみ之に依て更に禍を增す憂なしとせざるなり、終局は夫れ終に分裂する乎、吾人は半月旗前途の運命に向ては到底悲觀を禁ずる能はず、

讀者文壇

●寄宿舍の記（六）　かへで生

昨夜歸舍せざりしアイ君、青い顏して食堂にバクつく。

アイ君ッ如何した、

例に依つて奴の處さ、

朝からの自惚は止し給へ、

でも實際だからなア、

眞顏で云ふ、隣の食堂にクス〳〵と笑ふ聲す、誰にや。

夜九時歸る。

直ぐと床にもぐり込む。（二日の夜）

どんよりと曇りたる空に、工場の鐘響く。

『始めよ』との鐘は、ピン〳〵と頭上に釘打たる丶思ひなせど。ヤレ〳〵今日の仕事も無事に終へたるさ、氣持よく感ずるは、『止めよ』と鳴り渡る夕の鐘の音ぞかし。

これ均しく同じ鐘の音なるに、而も入るさ出るさに、斯くも情思を異にするは何故ぞや、アヽ吾等は自由の民なるを、パンの枷に堪へ得ざればなり。（三日の夜）

●大將　南軒

沛然たる驟雨、地上忽ち生氣を帶ぶ、家人周章騷然たるの時、悠々濶歩す蓑の大將柴折戸を排して來る。

●四つ禮　同

禮式に四種ある、一に曰く歐州式のチヤン拳禮、二に曰く淸國式の頂戴禮、三に曰く統監府式のた招き禮、四に曰く日本式の四ツ這禮、之を總して四つ禮と謂ふ。

●命は斬れぬ　同

吾輩は決して彼を殺す積りで彼の命を斬つたのでは無い、吾輩は吾輩の刀で只彼の肉體を叩いた丈だ、吾輩は決して彼の命を斬つたのでは無い、それに彼が死んだのは正に彼の勝手だ敢て云ふ、吾輩は決して彼を殺したのでは無い。

新刊紹介

●日本少年　少年雜誌として絕品なり寫眞版は能く少年の眼を喜ばしめ內容又讀むで倦む所を知らざらしむ（十一號十錢東京々橋區南紺屋町實業の日本社）

●新衣裳　新柄珍柄の種々なる摸樣能く流行を趁ふ當世の士女の眼を喜ばしめ且つ値段等も格外安値のやうなり（七十八號十三錢京都上京區堺町吉田耕方發行）

俳句

白露吟集

五印

新酒に崩れ醉たる李白哉　湖東
秋を遂ふ行く手は廣し渡鳥　香霧
米の値も知らず顏なる毛見の衆　掬子
粒々の辛苦も知らず毛見の衆　松花
大聲に話すもゆ丶し毛見の衆　掬子
末枯や醉の熟柿の三ッ四ッ　龍水
温き便り届くや今年柿　香霧
柿たまふ黑木の御所や冷し酒　掬子

七印

塵塚や物捨る手のやゝ寒し　湖東
堂島や藏明く頃を鳥渡る　掬子
澁鮎の早瀬に光る日南哉　田柿
町を出て一村寂し露時雨　松花



（四十一）　河合柳葉

『しかし、五日ばかりの中には迚も充分な支度なんか出來るもんぢやないが、奈何したもんだらう。』と、山川が眞面目になれば、お君も急に眞顏になつて、

『眞個五日ばかりぢや爲樣がないのね、せめて十日ありますと奈何にか間に合ふでせうけれど、爲方がありません、若も間に合はなかつたら差詰入用の物だけ注文して、あとは又其から製へる事に爲ませうよ、それにツイ此間出來上つたばかりの着物や帶もあるんですから……それよりか金側の時計と、寶石の入つた糸輪の指環を買ひませうよ。』

『金時計なんか先方へ往つてから、お前の腕で一つ二つ呪ひをかけやうものなら、二ツ返辭で買つて貰へるから、何も慌て買うがものは無いさ。』

『然う云へば着物だつて然うぢやありませんか、折角貰つた金子の使ひ道がありませんわ。』

山川はニヤ〳〵と笑つて、

『貰つた金子の使ひ道がない、何も心配爲なくても何程でも引受けてやるよ。』

『貴方は本當に虫が宜いのね、可厭ですよ貴方に金子なんか持たすのは、』

『なぜ。』

『なせつて、私のやうな我任意を苦しい勤に出して置いて、其の跡で甚麽樂みをなさるか知れたものぢやないわ。』

『冗談ぢやない、お前に大役を賴みながらからね、肝心な御前の氣に入つて、お君でなくちやならないと云ふ事になりやア、誰が何と故障を云つた所が鋼鐵の戰鬪艦に乘つたも同じことで、先づは大丈夫と云ふものだ、其處をお前が能く飮み込むで居て下れなくちや困るのだ。』

『本當にさ、警察の行屆いた今日に、何百萬圓と云ふ侯爵家を乘取らうと云ふのだから、並大抵な仕事ぢやありませんよ、私も貴方と云ふ相談杜があるからこそ、大膽に受合ふは受合つたものゝ、首尾能くやれりやよいがと眞個心配ですわ、』

『なあに、いくら警察制度が行屆いて居らうと、甚麽に法律が嚴重だらうと、罪跡を晦ます途はいくらも有るに相違ない、早い例がお前の宇治川の一件だつて旨く行つたからこそ、然うやつて安閑と爲て居られるぢやないか、まあ〳〵那樣心配は爲なくても宜いかも、精々御前の方を旨く賴むよ。』

『那麼巫山戯た所爲をするものか、そりや安心だが、先づ支度は間に合はなきや、何も今日や明日に東京に行くと云ふぢやなし、一二ケ月は此方に居るのだから、其間には何でも出來されるから宜いとして、どうかあらん限りの手管を出して、旨く御前を丸め込んで、首尾克く屋敷へ乘り込めるやうに爲て貰はなきやア、折角の骨折が虻蜂取らずになつて了ふからね、昔と違つて此の開けた御代に、侯爵華族の家を橫領爲やうと云ふのだから、容易な事で爲果せる仕事ぢやありやしない、どうしても私されお前が屋敷の中へ入込むで、それからボツ〳〵仕事を始めるより外に手段はないのだから、京都に居る中に、お前の腕で御前をスッかり蕩し込み、何でも彼でもお君でなくつちやあ夜も日も明けないと云ふ程に寵愛を受けなきあ、東京の屋敷に往つた時に、後室や家令などに故障を云ひ出された時に困る』

『御前の方は私が引受けるから大丈夫ですよ、安心して居て下さい。』



京城翻聞

一進會員血迷ふ

慘殺の噂に就て

頃者奇怪なる風說は傳はりぬ、一進會本部より在日本の李容九への報告として同人の語る所に依れば「全羅北道に於て侍天敎徒數人日本憲兵の爲に慘殺せられたり之が爲に會員一同激昂し日本軍隊は一進會員が暴徒に織きるゝも之を救ふ事なく卑怯にも暴徒に襲撃を加ふるを見ては信頼するに足らず今に於て決する所なくんば後日臍を噛むも及ばず會長には晝夜兼行にて歸韓し百萬の會員の爲に盡されよとの飛電頻に來る予は之に對して殺されたる者には氣の毒なれども开は何かの間違ひか或は護者の仕業なれば決して日本軍隊を怨むべからず予の歸韓する迄慎重の態度を執り輕擧妄動すべからずと戒め置きたり」云々果して之れ事實なりや、怪むべきは李容九の口吻が如何にも外交的にして何となく其眞相の疑はるゝ所あり、京城日報も之に疑團を抱きたるにや憲兵本部に向て其眞僞を確められたるに日本憲兵が韓人を殺害したりと云ふ事は全然無根なりと斷言せられたりと、余輩も亦此風說は何が爲にする所ありて傳へられたるものと信ぜざる能はず、我軍隊の規律嚴正なる決して斯の如き事なきを確信すればなり、若し假りに渠等の言ふが如く殺されたるものありとすれば、开は暴徒に等しき行動をなして我軍隊に抵抗したるものなり、由來地方には暴徒が侍天敎徒及び天道敎徒或は耶蘇敎徒の假面を被りて討伐を免れんとし、或時は此等敎徒に扮して巧に良民を誘惑するもの勘ならず、此等の中には一度び一進會にも加入し、天道敎徒となりたるものもあるべし、然れども暴行を逞ふし良民を苦しめ、我軍隊に妨害を與ふる如きものは假令其者が一進會員にあれ、侍天敎徒にあれ少しも假借する所なきは當然なり、斯る輩は純然たる暴徒なり、近來一進會員にして日本の權威を藉て良民に對し暴威を逞ふし、或は日本軍隊が自己に保護を與へざるを憾み軍隊の行動に妨害をなす者間々ありと聞く、元來韓人の行動は漠沌として其正邪を識別するに頗る困難なり、昨日は一進會員たるも今日は排日黨たるが如きことは決して珍らしからず、良民を惱まし或は我軍隊の行動を沮害し之に抵抗するものは如何なるものと雖も之を暴徒と見做して討伐せざる可らず、

然るに李容九は此等の實情を闡査せずして極めて其聲を大にして之を世上に傳ふるに至りては甚だ怪まざるを得ず、若し夫れ眞に日本に信頼し、日本軍隊を信ずるものならば篤と事實を闡査したる上に發表することそ至當なれ、然るを何ぞや能き材料を得たるかの如くに吹聰す、余輩が其口吻の外交的なるを最初に難じたる所以なり、殊に一進會と侍天敎とを同一なるが如く言說するに至りては更に何の意たるを解する能はず、一進會は一の政治團體なり、侍天敎は宗敎なり、素より之を同一團體なりとすべからず、而して例に依り會員百萬の爲云々と誇張し、此事件に依り暗に何事かを策せんとするが如き口吻を漏らし、淺薄にして見へ透きたる外交的言辭を弄するに至りては益々其心事の陋劣を憐まずんばあらず、斯る言辭を弄するも畢竟或る目的を達せんとする爲なるべし、之が爲に伊藤公は多少動かざることなきを保せざれども、韓國の事情に通ずるものは決して之に感動せざるなり

●漢城便り

▲一昨日は坂谷男爵出迎の爲三年振りにて開城へ罷越し候同乘者は荒井次官鈴木司税局長高橋興銀支配人其他にして諸種の問題に就て談話が實に入り思はぬ間に高麗燒の都紅蔘の都へ到着致候

▲午後四時男爵は安着相成候容貌に於ては差して變りなきも頭髮の幾部分かは霜に犯されたる樣見受けられ申候開城の居留民は國旗を揚げて男爵を歡迎致候出迎の官民は中々に多數なりしが特に目立ちたるは愛らしき小學兒童の一群に有之候男爵には之等愛らしき兒童の歡迎を深く喜ばれ彼等に向つて丁寧に挨拶せられ微笑しつゝ彼等と數語を交換相成候

▲男爵は荒井次官の案內により蔘政課及紅蔘製造所を巡覽相成候余も從て觀覽の愉快を有し候茲には蔘政課及紅蔘製造所の摸樣を一々記載致さず候得共余の受けたる印象を申せば萬事整頓一點の申分なく鈴木司税局長の氣焰も強ち無理に非ずと首肯致され申候

▲蔘政課を出でゝ男爵には滿月臺へ登られ高麗朝の古を偲びて余を顧み『君此荒墟の光景は羅馬の荒墟のソレに似たらずや』と感慨の念を久ふせられ候英雄も宰相も議會も豫算も繰延も將た政權爭奪も聽ては荒墟と爲るの運命を有するものに有之候

▲歸途車中の喫烟室に於て男爵の種々面白き土産話有之候男曰く米國に於てはルーズベルト、ブライアン氏と會談し英國に於てはエドワード陛下以下に佛國にては大統領以下に謁會するの榮を得たり、露國の現首相ストリピン氏とも會談したるが彼は中々の尤物なりと

▲男又曰く歐米諸國とて萬事が萬事完全には無きもさりとて我にとつては或物に就て一日の長あり、吾人日本人たるものは須らく虛心以て彼の長を採つて我に資する心掛無かるべからずと、思ふに這は尤の言に候西洋崇拜不可なり而り西洋排斥亦可ならず候

▲男が乾燥なる財政家とのみ思ひ居たるは余の誤りにて今回の旅行中には狂歌俳句等を物せられし由同行者假りの宗匠中村氏より聞及び申候ソレかあらぬか男爵は開城弓場氏の晩餐會後左の狂歌を禮として殘し申され候

弓場さんの馳走たつぷり頂戴し
モー紅蔘だ開城と呼ぶ

某氏坂谷男が多くの作を假りの宗匠中村氏に示し切りに批正を求めらるゝを見て

宗匠は男に批正を迫られて
あれも芳郎これも芳郎

東京電報

▲米國實業家入京

米國實業家の一行今朝入京し官民の歡迎盛んなり

▲日米協約の成立

日米兩國間に協約を結び相互の疑惑を一掃する目的にて其の協約成立せり不日發表さる

▲地方長官會議

今日より地方長官會議を開催し桂首相は施政及び財政方針に付訓示せり(以上十四日發)

▲細川侯淸浦子の出發

細川護成侯淸浦奎吾子は本朝新橋を發し滿韓視察の途に就けり(十五日發)

雜報

●阪谷男爵一行

開城に於ける

坂谷男爵一行は一昨十四日早朝鎭南浦官民多數の見送を受け同地を發し兼二浦を經て黃州に出てソレより京義線特別車に乘換へられ午後三時三十九分開城に着せられたり

一行は男爵の外中村、橫山、梅澤の三氏及び有賀鎭南浦税關長京城より出迎たる第一の三島法學士、度支部の藤原書記官)此所にて當日同地に赴きたる度支部大臣代理朴秘書官荒井次官鈴木司税局長小林、藤川、不破、岡田氏其他の各度支部高等官、石川鐵道管理局技師長一ノ瀨其他の各鐵道高等官高橋興銀支配人羽田大每是經日本の各通信員韓國經濟協會代表者峯岸本社長其外同地の上林蔘政課長以下の各職員弓場第一出張所長、居留民總代、韓官吏小學校生徒の出迎を受く男爵は長途の旅行に不拘至極壯健に見受けられ下車すると同時に出迎者一同に向つて丁寧に挨拶せられ特に小學校生徒に向つて出迎の勞を謝せられ夫より齋藤蔘政監視部長の先導により男爵は一同と共に車を驅て蔘政課に赴き紅蔘の各標本を一覽し化學室に入て上田技師の人蔘の有する傳染病及黴菌に就ての詳細なる說明を聞取り又蔘政課庭內の人蔘試作の狀を一覽せられ續て紅蔘製造場に於て作業の模樣を一覽せられ、茲にて一同紀念の撮影を爲し了つて一同車を列ね居留民總代の案內にて有名なる高麗朝の荒墟滿月臺に行かれ同所を一覽せられ午後六時二十分弓場第一出張所長の開催に係る開和館に於ける晩餐會に臨まれ了つて暫時休憩訪問の紳士諸氏と快談の後官民多數の見送を受け八時八分同地を發し京城に向はれたり

開城居留民は當日男爵に敬意を表する爲各軒頭に國旗を揭揚し幔幕を張り毬燈を揭げ城中何となく賑かなりし

汽車中の男爵

開城發車後男爵は例の戰利鋼鐵特別車喫烟室に在つて京城よりの出迎者諸氏より韓國の經濟財政產業鐵道其他に就て詳細なる談話を聞取られ毫も倦色なく夫より頗る快活に旅行中の珍談等を爲され午後十時二十分南大門驛に安着せられ昨紙報せし通り日韓官民多數の出迎を受け無事旅館天眞樓に入られたり

男爵に請願

兼二浦に於て韓人朴某なるもの鐵道敷地の件に關し男爵に向つて上書請願を爲したり因つて男爵には自分が上書請願を受くべき當局者に非ざること及び今後とも不心得の無き樣親切に言聞かして朴を歸されたりと

昨日の阪谷男爵

坂谷男爵には昨十五日午前より曾禰副統監長谷川大將を訪問せられ續て各韓大臣を各部に訪問せられ夫より統監府、通信管理局、鐵道管理局、大審院法務院理事廳等を訪問せられ夕景より曾禰副統監の開催に係る統監邸の歡迎晩餐會に臨まれたり

本日の阪谷男

坂谷男爵は度支部諸官の案內により本日度支部所管の諸事業を視察せらるべし

●阪谷男滯京の日程

一昨夜開城視察の上着京したる阪谷男一行は昨日副統監軍司令官を訪ひ第一銀行統監府各部統監府所管の各局大韓醫院パゴタ公園等を巡視し次は統監邸に於ける晩餐會に臨み十六日は建築所漢城財務監督局度支部龍山なる印刷局麻浦煉瓦製造所を視察し午後度支部の官邸に於ける宴遊會に臨み十七日副統監と帶同參內謁見の後經濟協會に出席し景福宮を參觀十八日は仁川に入り同夜歸京急行列車にて出發馬山釜山を經て歸朝する豫定なりと云ふ尙韓國各部大臣は十八日午前歡迎會を開催する筈なりと

●鶴原氏と其後任

鶴原總務長官の辭表聽屆けられたる曉には氏は噂さの如く住友家に入るべきも追ては代議士と爲り政界に活動する考へありとか又其後任には順序として參與官石塚英藏氏陞任するが當然なれど氏も伊藤統監の信任想ひの外に薄ければ多分他より拉し來らるべし

●農商工部の豫算會議

農商工部にては木內次官歸任したるを以て昨日より明年度豫算に關する會議をなし居れり

●博覽會委員會

明後年開設の博覽會に關しては既に大体の協議を終りたるが尙近々同委員會を開き詳細なる協議をなすべしと

●忠淸南道の郡守會議

忠淸南道にては本月二十日より觀察府所在地公州に於て郡守會議を開催するに付き內部より地方局なる渡邊事務官鷹松主事列席のため出張す

●甚しき韓人の誤解

過般來陸地測量部測量班員各地に出張し測量に從事せるを見昨今韓人間に於て流言する所によれば今回韓國政府に於て新紙幣(第一銀行券)を發行したるは日本政府より多額の國債をなし其の抵當として各道の山河を日本政府に引渡す事となしたるにより日本政府は土地受取のため測量員を派遣せしものにして今後韓國人民は薪の材料をも得ること能はざるに至らん云々と馬鹿げたる誤解をなすものかな

●白銅と元山方面

成鏡南北道は葉錢通用地にして從來毫も白銅貨(貳錢五分)を見ず僅かに江原道に接近せる安邊郡の永豐社に多少の通用を見しのみなるに通用期限の目睫に迫りたる昨今に至り俄かに元山方面へ非常に流入し來り現に元山里に於ける遠市若くは近市の開催日等其取引貨幣の種類を見るに十中の七八分は白銅貨なるが流入の原因に就て調査したるに由來江原道は白銅貨の通用地なりしが來る十一月三十日限り其通用を禁止せらるゝ事なるゆへ期限の切迫に隨ふて之れを嫌忌し頻りに其排出に努むるに至り一方咸鏡道の韓人には地方官憲も葉錢通用地たる故を以て白銅貨に關する事柄の周知を爲さゞりし爲め彼れ等は無意識に收受するより從つて元山方面に多額の流入を見るに至りしもの由にて元山財務監督局にては大に之を憂ひ其周知方に就きて關係部下に夫れ〳〵通達したる趣なるが韓人の事さて通用禁止の期限に至るも支金庫若くは農工銀行等へ其引換に來るもの非らざる可ければ出張引換の止むなきに至るかと謂へり但し公納金としては明年五月三十一日迄差支なしとの事

●巡査配置請願規則

從來個人にして礦業其の他地方に於て事業を經營するものにして特別に警察官の保護を要するため巡査の配置を請願するものあるも職員不足のため充分なる便宜を此等請願者に與ふる事能はざりしが今回內部警務局は巡査配置請願規則なるものを定め一般人民の利便と其の保護の目的を全ふする事とせりと

●飜譯官補採用試驗

韓國法部に於ては來る十一月一日日本人飜譯官補の採用試驗を行ふ筈志願に關する手續等は近々官報を以て發表すると云ふ

●鍋島侯歡迎會

鍋島侯爵及令夫人歡迎會は一昨十四日午後四時倭城臺統監府員運動場に於て開催せられたるが長谷川大將、曾禰副統監、石塚長官代理、各部次官香阪法務院長、村田少將明石憲兵隊長、三浦頭本、熊谷、中村、森等の諸氏三浦、古谷、松井、永濱、石川、國分、頭本、道家、黑田、外國領事夫人令孃等の各婦人其警視副監、張漢城府尹、金事務官朴義秉李鈺卿、朴淵卿等の諸氏八十餘名出席鍋島侯爵は令夫人及令息直映氏と其に總務長官邸應接室に少憩の後新設の食堂に案內せられ三浦理事官赤十字社愛國婦人會兩本部總代として一場の挨拶をなし鍋島侯の丁重なる謝辭ありて食に移り食事中軍樂隊の奏樂あり一同歡を盡して散會したるは午後五時半なりき尙當日侯爵家より左の寄贈金ありたり

一金五十圓 日本赤十字社韓國總委員部
一金五十圓 同 愛國婦人會韓國本部
一金十圓 同 仁川委員部
一金十圓 同 龍山委員部
一金十圓 仁川篤志看護婦人會

●熊谷民長の招待宴

熊谷居留民團民長は既報の如く一昨日午後七時より花月に於て今回の改撰に當撰したる民會議員其他を招待し晩餐會を催したり先づ席定るや熊谷民長の挨拶に次ぎ和田議員總議員を代表し答辭を述べ次で戶叶大韓日報社理事記者を代表し答辭的演說あり了つて宴に移り福引及び花月藝妓の手踊り等の餘興あり主客十二分の歡を盡し同十一時頃隨意散歸したるは頗る盛會なりし當夜列席したる人々は三浦理事官始め理事廳員新撰出民會議員及び在京新聞記者等三十餘名なりし

●仁川府尹の園遊會 本日午後三時仁川府尹金潤晶氏は日淸及在仁外人を招待し園遊會を催す筈

●仁川經濟會發會式

仁川經濟會は其發會式を兼ね來十八日阪谷男の歡迎會を催す筈なるが經濟會員以外の者も參席し得べしとなり

●仁川郵便局の會計檢査 仁川郵便局會計檢査は去十二日無事結了し目下永登浦局の會計檢査中なりと

●足立支店長の出發 釜山十八銀行支店長に榮轉せる足立瀧次郎氏は昨日夜行列車にて釜山に向け出發し同行事務の引繼を了し一應歸仁し仁川支店の引繼をなしたる上赴任する筈なりと

●漢城病院長の出張 忠淸北道觀察府書記官神谷卓男氏急病に付き永井漢城病院長に往診方木內次官よりの依賴にて十四日夜急行せるが本日歸任の筈なり

●曾禰寛治氏 日韓瓦斯會社の同氏は同會社建設の用向を帶び十三日夜入京副統監邸に入れり

●藤田謙一氏 日韓印刷株式會社長[illegible]謙一氏は去月來歸朝中の所十三日夜歸社したり

公人私人

▲小笠原寬(財務官)十四日入京綠館
▲本田幸介(水原模範場長)出京中の所十四日歸任せり
▲林彌三吉(步兵第十三聯隊中隊長大尉)十四日龍山に歸任
▲香月勝司(十三聯隊附中尉)同上
▲川浪傳吉(同大尉)同上
▲石丸志都磨(同上)同上
▲永島巖(平壤控訴院長)十四日下仁
▲浦家駒次郎(東洋拓殖會社員)十四日入京三日月旅館

●近事片々

▲秋色 深く楓葉霜に染て爛熳燃るが如き嚴島高雄嵐峽の風色思ひ出されて懷かしし
▲王子 瀧の川の紅葉も今ぞ盛り瓢酒に醉して楓樹の下に時心を動かすも亦快事ならん
▲奈良 嚴島に於て月光清き所に妻懷ふ處の欒を聞き秋の深味を探るは哀にも亦床し
▲柿實 の赤く垂れる村家に憩ひ日暮れて後數に憐れの虫の音を聞く田園生活も亦妙
▲馬券 問題に關する曾禰子の辯解は京城日報紙上に現はる其實說を茲に摘記せん乎
▲大坂 朝日大坂每日其他に記載せる電報の如き斷じて發したる事なしと左もあらん
▲態々 來訪せる者に向て政府に對し損害要請をなす會社出づべしと語りたる事有と
▲京城 に競馬場を設くべし杯と言ひたる事なし五十年百年の後は知らず今は要なし
▲馬券 に對する予の意見は閣員元老にも意見書を送りて自己の所見を明白にせりと
▲弊害 のある者を繼續すべしと云はざるも玉石混交一齊禁止せば獎勵の道なからん
▲元來 法律以て馬券賣買を許可せば弊害を取締るに不便君かず行政處分を可なすと
▲何れ にしても馬券禁止には面白からざる感情を抱ける者の如し併し言說條理あり
▲實際 西洋諸國にも實例多きことなれば極端なる禁止は余りに早計に失せる觀あり
▲何事 にも其始に於て能く研究せざる可らず中途弊害の出るに驚き狼狽するは不可
▲珍客 來今や一年中最も好氣候從て旅行者多し京城も珍客來にて社交界は多忙なり
▲鍋島 侯爵及令夫人阪谷男爵一行夫々歡迎會を開かる此機を利して京城を廣告せよ
▲阪谷 男の經濟協會に於ける講演の如きは最も有益ならん是れ男の新知識分與なり
▲併て 男の韓國經營に對する所見を傾聽するが如きは此際尤も有益の事なるべき也
▲巴爾 幹問題に就て獨逸頻に辯解するも何人も之を眞實なりと首肯するに苦しむ也
▲辯授 したる事實なきも墺國は同盟國なるが爲に助力すべし追々本音を吹き始める
▲露國 が頻に列國會議の開催を主張するはダーダネルス通過問題を決定せんが爲也
▲英國 が兎角に列國會議に氣乘せざるは露國の心底を見拔き居るが爲也と傳へらる
▲小山 六之助出獄以來氣焰を吐て曰く仕て與れるなる首相でも勤めるが役人は嫌也
▲寧ろ 新聞記者となりて奮闘することそ面白けれと矢張り當年の覇氣[illegible]衰へず

特別廣告

長らくお待たせしました。此十七日から病院を開きます。處はコンモリと茂つた森が、南大門通の直ぐ北に高く聳へて見えるのが夫れです。名の通り婦人の病氣ばかり診ませぬ。成可く午前に御出下さい。御手當ては施療も致します。日曜は研究日ですから御許を願ひたい。

京城北米倉町（元英人ホッジー氏邸）
京城婦人病院
ドクトル メヂチーネ **工藤武城**



●改刊二週年祝開會時刻

大韓日報が改刊二週年記念の爲め本明の兩日歌舞伎座に於て觀妓演藝會を催ふすことは既記の如くなるが就き一般への案内状には午後五時開會とあるも演藝の都合により四時に開會し五時より餘興に取り掛る由なり

●大韓毎日發賣禁止

大韓毎日申報は治安に妨害ありと認められ内部大臣より發賣頒布を禁止せられたり

●タイムス運動會

明十七日仁川朝鮮タイムス社の主催に係る水原松茸狩りの運動會に參加するもの多き由なるが同行中婦人子供連多く尚希望者は本日中同本社若くは京城支社に申込まるべしとなり

●仁川局員の運動會

明十七日仁川郵便局員は月尾島に於て秋季大運動會を催す由

●仁川女學生徒の修學旅行

仁川小學校女生徒二十名及高等女學校生二十名は本日五時五十分出發水原に修學旅行をなす筈

●鍋島侯夫人の寄附

去る十二日仁川に下向せる鍋島侯爵夫人は鶴志看護婦人會仁川支會及び愛國婦人會仁川委員部に各十圓宛寄附したるが兩會は右寄附金は基本金として永く保存することにしたりと

●討伐彙報

全羅北道古阜守備隊の曹長已下九騎は十月十二日高敞東南の東山にて四十の賊を攻撃し其十九を殪し銃器は其他雜品若干を鹵獲す△平安南道孟山憲兵分遣所の憲兵一補助員二は十九日孟山郡鶴泉面附近にて十一の賊を攻撃し其四を殪し銃器三刀二十を鹵獲す△平安南道藥水洞憲兵分遣所憲兵六は一月十日咸鏡南道永興郡内に於て約六十の賊を撃退し其七を殪し銃器一雜品若干を鹵獲す△咸鏡南道石浦憲兵分遣所の憲兵二補助員四は端川郡内に於て四十の賊を撃退し其一を殪し銃器雜品多數を鹵獲す

●家券から悶着

一昨日午後三時頃水票橋三十四統五戸金召史といふ年若き韓婦人銅峴分署に出頭し訴へ出づるやう自分は目下妓生を爲し居るものなるが丁度今より三年以前自分の馴染客なる金世鎭といふものに家券一葉を貸し與へ置きたるに未だに返却し呉れずのみならず近頃日本人の質商石橋某なるもの自分方に來り右の家券を示していふやう此の家券は金世鎭といふものが三年以前持ち來りソレを抵當に金三百圓を貸しやりしものなるが何にさま三年後の今日迄も質受けに來ず依つて實は金氏に其の處分方を迫るが至當なれど昨今にては金氏の住所不明なるより已むなく貴方に參りし次第なるが兎も角期限も疾うに過ぎたるものなれば此れを引き替へに現金三百圓を渡し呉るゝやうとの突如の言葉なるも自分は左樣なことに關係なく三百圓といふ大金を自分から支拂ふ義務もなければ何卒金を呼び出だしてお取り調べの程を願ひたしとのことに警察署にても打ち捨て置れず昨今專ら金の行衛を搜索中なりとかいふ

●龍山支局設置●

今般漢江通三丁目に支局を設置し社員中村弘を特派して該地方に於ける通信營業等の事務を取扱はしめ候へば一層御愛讀之程奉願候

十月十六日　**京城新聞社**

●龍山支局設置●

●妹を喰ふ

中部豆錫洞統戸不詳盧召史(七十)なるものは働き盛りの年頃にも拘はらず性來大の横着者にて酒は飲む女は買ふといふ有樣親戚友達は勿論親兄弟にも見放されて今では誰とて相手にするものとてはなきが斯ういふ奴に限つて骨肉の兄弟を喰ひ物にするもので現に自分と血肉を分けた一人の妹盧姓女(三十)といふが人並よりも目鼻立ち揃ひ居りソレに兩親が世間稀れなる人好なのを宜いことにして先達右の妹を西部樂　酒幕店李順宗なるものゝ家へ身の代金六十圓にて蝸甫に賣り飛ばし其の金を以て賭つ飲む買ふといふ三拍子揃つた道樂の費用に充てしがソレさへ瞬く間に使ひ果し今では一文無しの空つケツとなりしより又々惡るたくらみを考へつゝある矢先昨日聞けば蝸市團束令なるもの發布され更に父兄の許しを受けざれば營業出來ざるといふを寄貨とし幷を楯に取りて李方に赴き談判せしが李は却々聞き入れざるより已むなく表沙汰となし警察の手數を煩はせし結果今度は十五圓をフンダクリホク／＼もので立ち歸りたりとはサテ／＼困つたナラズものなるかな

●定公の酒癖

龍山元町二丁目人夫原島定吉(三十)といふは平素は職業柄にも拘はらず至つて柔なしき性質ながら酒を飲むと馬鹿に糞度胸が据つて了ひ一圓の金でも百圓に見ねるといふ馬鹿／＼敷程陽氣になつて了ふが常なるが此の男ッヒ二三日前例の如く仕事先きより歸り來り一日の疲れを休めんものと家内の酌で一杯傾け微醺機嫌の何うやら氣も心も陽氣となりしが其の際少し量を過ごせしと見ね忽ち持前の度胸が据り誰も尋ねはせざるに臆に霞む醉眼をば右の手で小擦りながらナニクヨ／＼する子ー金は世間の廻り持ちだと家内が虎の兒のやうに仕舞つて置く大事の財布をば鏡台の抽斗からソッと持ち出し便所に行くからと僞つて裏口から表に出で其の足で桃山に赴き山遊樓に登りて散財を爲せしは宜きも翌朝になりて九圓八十何錢のツケを出されたので奴さん吃驚仰天しア丶來るのではなかつたと勘定を濟まして悄然と家に歸り兩手を突ひて家内に謝罪し俺れが惡かつたと頭を下げしはしほらしいが其の時屋根の上で一羽の烏が阿呆／＼と鳴き居るので家内は突然男の胸倉に掴みつかれ前さんは烏にまで馬鹿にされて居る情けない男やなと涙を流して悔みしとかの投書の儘を書の如し

商店覗き

▲丸京呉服店▼

商賣振りは聊か商式なれど眞面目で着實で掛け引なくソレに店員一同腰が低く十錢十五錢の僅かな買ひ物でも客とあらば下へも置かぬもてなし振り所謂商買の金科玉條たる「多少に拘はらず」なる要文を着々服膺して誤たざるところは流石は常々よりの主人の訓戒思ひ出されて奥床しき心地す店員は總体家族的にて他人の寄り集りとは思はれず相助け相憐みて店務に從事するさまは確かに他店員の模範として誇るに足るべし一年中新柄珍柄の流行品斷ふる間なく殊に昨今はれ得意先の引立に酬ふる爲め均一法の價格を以て盛んに賣り出し中なり

▲恵り德▼

新店なれども商賣は却々に振つたものなり商品目録は半襟帶上げ羽織紐、リボン等其の他御婦人方の調度一切にて直段も亦特別勉強なる所から店頭常に顧客の絶ゆることなし店の采配は商賣柄專ら内儀が振り居る丈ありて客に對して穩やかにソレに太く短かくといふよりも細く長くといふ主義なるを以て店運日増しに發達し現今にては當地はれろか仁川龍山迄も得意の手を擴げ居ると云ふ店飾りは毎時も華やかに年頃の娘達や酒落氣に富んだ妻君連をして時に佇立少時容易に立ち去る能はざらしむるものあり店舖は明治町一丁目也

▲藪そば▼

名からして東京風なり而も名は實の賓といへば其の客に對して喰はせる品物の鹽加減も亦東京風ならざるべからず而り本町六丁目の藪そばときへ言へば唯に江戸ッ兒のそば好きのみに限らず何人にても其名を知らざるものなし第一色氣のなき此の店の特色一般他の飲食店の如くポチも要らねば規定の定價より高く貪らるゝ心配なしソレが嘘だと思ふなら僅か三十錢を懷中にして赴きなばザル二枚に酒一本の御馳走に有りつかるゝは請合なり内儀は至つて商賣上手下女も亦親切なり

●腸窒扶斯

京城若草町一丁目百十九番地江頭卯三郎(三十二)は十日に日出町四番戸柏竹五郎(三十九)は十日何れも腸窒扶斯に罹り大韓醫院に送らる

診療に從事す

理事廳前角
統監府通信管理局囑託醫學得業士前漢城病院内科主任 **池田季雄**
池田内科小兒科醫院

巷のいろ／＼

●捨兒軒下に泣く

一昨日午前一時頃西部唐皮洞四統趙亟奎方の軒下にて頻りに嬰兒の泣き叫ぶ聲するにぞ折柄巡回の巡査之を聞き付け抱き起して本署に連れ來りしが之は紛れもなき韓人の捨兒にて身には白木綿の單衣を着せ淺黄色の蒲團にくるみありしといふ依て警察にては昨日京城孤兒院へ收容せり

●盤松坊の出火

一昨夜十時頃西部盤松坊阿峴二百十統一戸成泰鎭方より發火し附近の韓人家屋三十二間を燒失せしが原因はオンドルの火より飛び火し全損害額九百八十餘圓に上れりといふ

●酒に飲まれて亂暴

茨城縣平民漢城衛生會中島某(三十九)は一昨夜何所かで大酒を喰らつて酔つたくれ西部席洞二十四統林洪奎方及び支那人某方に侵入し亂暴を働きたる爲め警官出張説諭を加へて放還しやりたり

●ヨボの珠數繋ぎ

東部坪井洞朴德須(四十)智禮洞李坡德(三十八)石橋洞朴須龍(三十二)光熙門内姜泰熙(三十五)の四名は一昨日午後十一時頃光熙門内南城坊兄弟洞六十二統姜封股方にて盛んに賭博を爲し居る所を折柄巡回の巡査に發見され一同本署に引渡されたり

●無錢遊興

龍山陸軍兵舍内平野好太郎(三十二)は昨日午前二時頃本町一丁目料理店野村梅吉方に登り一圓六十錢の飲食を爲せしが懷中無一物なるより無錢遊興者として警察へ突き出されたり

（平）（民）（文）（庫）

▲南大門驛のチリリン振りは甚だ不親切な奴である(旅の人)▲京城の美人投票を行なつては如何(運動生)▲私は彼の白蓮花女に面會したいが御存知の諸君は知らして下さいな(明治町番頭)▲六號活字君に告ぐ六丁目の靴屋の娘は私しが先に目を付けたのですサ

ゾヤ誤落勝(母指生)▲松葉の長崎じるとは滅法に美味い(一杯生)▲六號活字さん貴郎首縊つてはいけなくつてよ(星子孃)▲星享先生の如き大人物は現在は勿論だが將來だつて恐らくあれほどの大偉人は出來まいね(政治家)▲御心配御無用將來天下を料理する男子此所にあり(活字小僧)▲大和町から色の白い奥さんが毎日お風呂に來られるが俺ら旦那の面が見てゑな(湯屋之助)▲京城は高利貸的性質を帶びて居る人物の集合地なり(借家主人)▲無學無能な統監府の金スジが偉で威張つて居るが鼻を叩いてやるべし(番頭取締)▲色男には二度となるものでない力と金がいつもない(温実生)

●天氣豫報（自十五日午後六時至十六日午後六時）

北又は西の風晴後曇

十五日午前六時各地氣象概況
低氣壓支那東海に現はれ北東に進行せんとするもの如く各地共北又は東の風吹き南部は雨天中部は曇天北部は晴天なり

落語

一ツ穴（五）

橘家圓喬口演

權「掃除を爲せるんなら酒や竹が居りませう……那方へ行きな〳〵遠慮無しに何處へでも這入つて來る然んな不潔へ足で座敷へ這入つて來ちやア不可ねへ趾へ土塊が附着て居るじやア無へかナニ冷飯草履の破れた奴を蹴揚げた猶不潔へヤ其方へ行きな〳〵何をゲラ〳〵笑つてやアがるんだ……

妻「何う致しまして決してモー御心配には及びませんが何方へ……

權「ナーニ田中屋に連れられて北廓へ……田中屋が例の浮れッ氣だものだから大吉（引手茶屋の家）も餅に搗ちまつた如斯に永く成る積りなら直に電話でも掛けるんだが今歸る〳〵と云ふもんだから萬一に鬼されて遲く成て濟ません何處からも手紙が來なかつたかへ

妻「否々……

權「然かい

妻「アノ御手紙は參りませんが川田さんから人が參りました

權「川田さんから御人が……何日……昨日かへ、サア失策つた昨日往く積りに成つたんだが今日歸路に廻つて來れば好かつた家を急いだもんだから忘れちまつた直に往て來やう

妻「れ召を

權「着物は是れで好い……供はアノ何を呼んで御與れ定吉を連れて行かう

妻「定は唯今申付た事が御座いますから權助を御連れ被爲て

權「那れかい……彼者やア御免を蒙むりませう汝大層貧役者だが那んな白痴は無いねへ何んだつてね叱言を云ふと立腹やアがつて供の癖に先へ立て歩くから白痴奴何んだつて先へ立て歩くと云つたら乃公が先へ立て歩くんぢやア無へ命樣が遲足いから跡ん成るんだつて斯う云ふから何ぼ足が早いたつて供が先へ立て歩く奴が有るもんかと云つたら跡から來やアがつた其時は大變從順で好かつたが越前堀へ往て提灯を借て來た時提灯を持て跡から來るんだ奈是先へ立ねんだと云つたら過日供は跡から來いと云つたのに然んな無理な事は無へ提灯は先へ來い供は跡から來いつて乃公ア然んな長い手は持たねへと斯う云ふのサ番町さんへ往た時は跡から痰を私の横つ面へ吹掛ける者が有るから誰かと思つて見ると權助奴包みを背負てニコ〳〵笑ひながら平生は飛越す筈だつて云やアがつた爲て見ると毎日吐るんだ

妻「夫だッて貴郎田舎者の方が正直で宜う御座いますヨ

權「ちやア連れて行くヨ……呼んだつて返辭を爲やア爲ねへ……權助や

權「ハーイ

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金參拾五錢▲三ヶ月 ▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行 ▲一回四十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬

發行所 京城新聞社